世界遺産学学位プログラム(博士前期課程)

必修科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
0A00103	研究倫理	4	1.0	1 - 5	春BC	随時	岡林 浩嗣,大須賀 壮	研究活動に従事する上で踏まえるべき研究倫理の基礎を、具体的事例を交えて講義する。研究不正(FFP)、研究費の不正使用、その他のコンプライアンスなどを取り上げる。また、これらを理解するための前提となる、科学技術政策、研究助成のしくみ、申請や審査のしくみなどについても触れる。 本科目は講義を主体としつつ、講義の間に演習(個別演習・グループ演習)を交互に挟む構成とする。講義においては、研究倫理と研究公正に関連する基本概念を整理すると共に、研究不正(FFP)、研究費の不正使用、その他のコンプライアンスに関わる問題などを取り上げる。また、これらを理解するための前提となる、学術研究活動をとりまく環境の変化や、科学研究費の申請や審査のしくみなどについても触れる。特に特定不正行為に関しては具体的事例を元にその原因や背景を解説し、受講者が研究活動を行う上で必要な対策について具体的に考える機会を与える。	オンライン(オンデマンド型)
0ATV001	世界遺産論	1	2.0	1・2	春AB	水2,3	下田 一太,池田 真利子,黒田 乃生,飯田 義彦,伊藤 弘,上北 恭史,滝沢 誠,野中 勝利,松井 圭介,松井 敏也,八木 春生,肥後 時尚,三ツ井 聡美	本科目は，世界遺産学学位プログラム博士前期課程１年次の必修科目である。世界遺産学位プログラム教員の研究の紹介のほか，学生の研究発表等を予定する。国際遺産学・遺産の評価と保存・マネージメントとプランニングの各分野に分かれて議論を行い，研究に必要な基本的視点を確立する。また，最新の遺産保護・活用事例に関する研究・報告やサイトへの実際の見学を通じて，最先端の研究に触れる。履修生は，最終2週において，研究対象となりうるテーマについて発表することを求められる。	英語運用能力が必要な場合もある。（日本語話者向け） 2025年度は対面講義を予定する。希望者は必要に応じてオンライン受講可能である。
0ATV002	世界遺産特別演習	2	3.0	1	通年	随時	下田 一太,池田 真利子,黒田 乃生,飯田 義彦,伊藤 弘,上北 恭史,松井 敏也,八木 春生,肥後 時尚,三ツ井 聡美	本科目は，世界遺産学学位プログラム博士前期課程１年次の必修科目である。本科目の演習時間数は，研究室ゼミの参加と，年1回（例年１月後半～２月前半）実施する「修士論文進捗発表会」での発表・質疑応答に該当する。配属された各研究室ゼミでの専門書、先行研究の論文講読や合宿，研究発表等を行うことが求められる。これらの参加により，研究テーマや手法を決める。また，論文講読を通じて，学術調査や論文執筆の基礎的スキルを身につける。履修生は「修士論文進捗発表会」にて修士論文研究テーマについて発表することを求められる。	英語運用能力が求められる。（日本語話者向け） 2025年度は対面講義を予定する。希望者は必要に応じてオンライン受講可能である。
0ATV003	世界遺産特別研究	2	6.0	2	通年	随時	下田 一太,池田 真利子,黒田 乃生,飯田 義彦,伊藤 弘,上北 恭史,松井 敏也,八木 春生,肥後 時尚,三ツ井 聡美	本科目は，世界遺産学学位プログラム博士前期課程２年次の必修科目である（１年次の履修は認めない）。 修士２年次には，指導教員等から修士論文の研究についてゼミ等で定期的に学術指導を受け，ゼミ発表や修士論文中間発表を経て，修士論文作成と12月の提出を行い，中間発表，修論個別審査，および公開発表において発表を行い，審査を受けることが求められる。なお，論文担当委員の指示をよく聞くこと。	英語運用能力が求められる。（日本語話者向け） 2025年度は対面講義を予定する。希望者は必要に応じてオンライン受講可能である。

選択科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
0AS0306	世界遺産を科学する	1	1.0	1・2	秋AB	火2	下田 一太,池田 真利子,黒田 乃生,飯田 義彦,伊藤 弘,上北 恭史,松井 敏也,八木 春生,吉田 正人,肥後 時尚,三ツ井 聡美	本講義では，世界遺産（文化遺産・自然遺産）に関する学術的調査・研究の進展や現状と課題，そして保護・利用・活用等における実務的な諸課題・解決方法を，人文社会科学（芸術学・地理学・保存科学）・自然科学（生態学・保存科学）・工学（建築学・建築保存学・造園学）等の観点から多角的・学際的に考究する。	対面 2024年度は対面での実施を予定する。
0ATV101	文化遺産論	1	1.0	1・2	秋AB	木2	下田 一太	文化遺産の保護について、遺産の概念、保護の理念、日本及び諸外国の保護制度の概要、さらにそれらの現在に至る歴史的経緯の理解を通して、現代社会における役割、その現状と今後について考察する。履修する大学院生は、文化遺産保護の理念と制度を理解するだけではなく、現代社会における文化財保護についてのディスカッションに参加し、意見を述べることができるようになることが求められる。	対面

0ATV102	文化遺産演習	2	2.0	1・2	春BC 夏季休業中	集中	黒田 乃生	本演習は世界文化遺産の保護の現状について体験を通じて学ぶことにある。1995年に世界遺産リストに登載された「白川郷五箇山の合掌造り集落」およびその周辺集落において維持管理活動の体験および実際に文化遺産がある地域で生活する関係者、文化財保護の担当者、まちづくりの団体との交流や聞き取りを通して、世界遺産保護の手法を学び、意義および課題について考察する。現地実習の前には現地について学ぶ課題を提出し、実習後には演習で体得した文化遺産保護の課題についてレポートを提出させる。	対面
0ATV103	自然遺産論	1	1.0	1・2	春B	集中	飯田 義彦,吉田 正人,三ツ井 聡美	自然遺産保全の基礎となる自然保護、生物多様性保全を学ぶとともに、自然遺産と関連する保護地域制度と自然遺産との関連性について考究する。とりわけ、世界自然遺産の登録基準、世界自然遺産のセイフティーネットとしての危機遺産リスト、外来種や気候変動のモニタリング、保護地域のネットワークと国境を超えた世界遺産などの事例を考察する。	非常勤講師：吉田正人
0ATV104	自然遺産演習	2	2.0	1・2	夏季休業中	集中	三ツ井 聡美,吉田 正人,飯田 義彦	自然遺産地域における現地調査を通じて、自然遺産地域の保全と管理、およびそれに対する地域住民や専門家の参加について学ぶ。自然遺産地域の管理計画、科学委員会・地域連絡会議を通じた専門家、地方自治体、地域住民、NPOなどの役割分担と協働、外来種対策やエコツーリズムなどの事例を現地調査から学ぶ。	非常勤講師：吉田正人
0ATV105	宗教論	1	1.0	1・2	秋C	火3,4	松井 圭介	近年、注目を集めるようになっている世界における宗教とツーリズムとの関係をめぐる研究動向を紹介しながら、日本の世界遺産を事例に両者の関係を整理・検討する。とりわけ、世界文化遺産に登録された紀伊山地熊野古道、長崎・雲仙の潜伏キリシタン関連遺産などの事例をもとに、宗教遺産が観光資源として対象化される過程やその問題点を考える。本年度は，現地視察を実施し，上記に関する実践的な理解を深めることを主目的とする。	
0ATV106	無形遺産論	1	1.0	1・2	通年	集中	池田 真利子	UNESCO無形文化遺産保護条約の概念，体制やその変遷，また国内外の無形文化遺産の事例に関する実践的・学術的知識の習得を通して，無形遺産への理解を深化させ，無形遺産が持つ文化的価値について考究する。奇数年度である2025年度は，飯田卓先生（国立民族学博物館・文化人類学）を講師としてお招きし，集中講義を実施する予定である。	日本語運用能力があることが望ましい。 非常勤講師：飯田卓 含野外調査．実務経験教員．対面 2025年度は対面講義を予定する。
0ATV107	遺産保護行政論	1	1.0	1・2	秋A	集中	下田 一太,西 和彦,鈴木 地平	日本の遺産保護に関わる政策、行政システム、遺産保護制度の体系や保護の方法について理解する。文化庁の遺産保護担当者から、直接、遺産保護に関わる法制度、行政のシステムに加えて、具体的な遺産保護の事例についてその経験を伺い、日本の遺産保護行政の成果と課題について学ぶ。	実務経験教員．対面
0ATV109	世界遺産学インターンシップ（長期）	3	3.0	1・2	通年	応談	下田 一太,池田 真利子,黒田 乃生,飯田 義彦,伊藤 弘,上北 恭史,松井 敏也,八木 春生,肥後 時尚,三ツ井 聡美	遺産の保存・活用に関わる行政機関・法人やサイト等において実地研修を行ない，現場でのノウハウを学ぶこと等が求められる。インターンシップ先の代表的なものには，世界遺産保全に関する行政機関・コンサルティング，研究所，テレビ局，博物館・美術館等がある。研修先の選択にあたっては，修士論文研究の主題との関連性に留意すること。研修機関からの評価を考慮し，インターンシップの成果を評価する。インターンシップの期間の目安は3週間～9週間とする。	英語運用能力が求められる場合がある。（日本語話者向け）
0ATV110	Global Learning: Heritage, Creativity and Art（グローバルに学ぶヘリテージ，創造性とアート）	4	1.0	1・2	秋A	火4,5	池田 真利子,上北 恭史,松井 敏也,渡 和由,大谷 悠,Gross Anne,松井 圭介,北原 格	本科目は，「Creativity and Art（創造性とアート）」をキーワードとし，ヘリテージ学に関わる文理横断的な学術・学際的研究視点を日本語と外国語で学ぶことにある。そこで，「Designing Heritage Research」のテーマと関連付け，各年の学生／教員の関心や時流に合ったテーマを設定し，当該テーマに関する研究視点や事例，モデル等を学生と議論しながら解説する。2025年度は，ヘリテージ学の「課題」に焦点を当て，地理学（地域空間変容・都市文化・地域フィールド調査）・建築デザイン学（材料・構造・デザイン史・フィールド科学）・保存科学（行政協働・問題解決型科学・科学的調査手法）を中核とし，上述の学域以外の研究者ら（メディア学・建築学・デザイン学等）も交えて，概念・理論から実践的事例まで幅広く紹介し，議論を行う。JASSO応募に際しての必須科目に設定。	英語運用能力が求められる。（日本語話者向け） 対面．対面(オンライン併用型)．オンライン(同時双方向型) 2025年度は対面講義（教室で国内外の大学とオンラインで接続する可能性はある）を予定する。

0ATV111	Global Project: Designing Heritage Research(グローバルに考究するヘリテージ研究デザイン)	7	2.0	1・2	通年	集中	池田 真利子,上北 恭史,松井 敏也	本科目のねらいは，「Creativity and Art（創造性とアート）」で学んだ研究視点や各年設定のテーマに関連し，その研究方法やデータ取得方法を大学／現地フィールドで具体的かつ実践的に学ぶことである。学生は地域調査の基礎を学ぶだけでなく，自ら主体的にフィールド調査に取り組む経験を得ることができる。また，「Global 「Creativity and Art（創造性とアート）」と連携させることにより，国際的な学術議論を無理なく考えに取り組むことができる。 なお2025年度は，ヘリテージ学の「課題」に焦点を当て，地理学（地域空間変容・都市文化・地域フィールド調査）・建築デザイン学（材料・構造・デザイン史・フィールド科学）・保存科学（行政協働・問題解決型科学・科学的調査手法）を中核とし，フレキシブルなチーム（研究・情報メディア記録・提案）に分かれ，地域貢献における発展性を意識した学術的成果へと繋げる予定である。本科目では，専用のタブレット端末・録画機器を最大限活用したグループ学習を行う。	一定の基準を設け，履修生数を限定する場合がある。オンライン（同時双方向型）および対面の併用：および学外演習（東京都・茨城県・長崎県や市区行政，東京都荒川区・台東区および茨城県つくば市近郊の未活用遺産サイト等） 英語運用能力が求められる。（日本語話者向け） 英語で授業。 2025年度は対面講義（国内外の大学とオンラインで接続する可能性はある）を予定する。
0ATV201	Global Heritage Studies（国際遺産論）	1	1.0	1・2	秋B	火4,5	肥後 時尚	本講義では、歴史、哲学、公共政策など現代のグローバル社会における文化遺産保護を総体的にとらえて講述し、文化遺産のあり方について多角的な考え方を学ぶ。エジプトの文化遺産に焦点を当てながら、世界遺産条約などの国際的な条約から各国の保護政策まで取り上げる。	
0ATV202	UNESCO and the World Heritage Convention（ユネスコと世界遺産条約）	1	1.0	1・2	秋A	集中	上北 恭史,飯田 義彦,池田 真利子	ユネスコ世界遺産条約は、国際遺産分野で最も影響力のある制度として、個々の遺産の保護・保全の実際から、各国の遺産政策や行政の展開に至るまで、加盟国に重要な指導的枠組みを提供してきた。本講義では、世界遺産条約の歴史、理念、運用スキームを網羅しながら、世界遺産条約とその周辺で展開された国際的な議論の全体像を解説する。	非常勤講師：稲葉信子
0ATV203	World Heritage and International Cooperation（世界遺産と国際協力）	1	1.0	1・2	春BC	集中	飯田 義彦,池田 真利子,肥後 時尚	世界文化遺産・世界自然遺産に関わる国際協力の事例をもとに、文化遺産・自然遺産の保全に関わる国際的枠組みの成果と課題を学ぶ。合わせて、日本の国際協力に関する枠組みについても取り上げる。	非常勤講師：長岡正哲（ユネスコ） 外部講師:長谷川基裕(JICA) 英語で授業。
0ATV204	World Heritage and Civil Participation（世界遺産と市民参加）	1	1.0	1・2	春AB	木3	池田 真利子	本講義では、1）現在の世界遺産が直面する課題を的確に知り、2）その背景にある地域の実情を多角的かつ分野横断的にみること、さらに3）世界遺産の維持のために必要不可欠とされている市民参加の在り方を、世界遺産に限定せず、広くヨーロッパの遺産保存の在り方から探ること、4世界遺産の多様化、5EUにおける最新の文化遺産を巡る動向を理解することを通じて、世界遺産における市民参加がどのようにして実現され得るのかを考えることを目標とする。JASSO応募に際しての必須科目に設定。	英語運用能力が求められる。（日本語話者向け） 対面．オンライン(同時双方向型) 2025年度は対面講義（教室で国内外の大学とオンラインで接続する可能性はある）を予定する。
0ATV205	World Heritage and Sustainability（世界遺産と持続可能性）	1	1.0	1・2	秋ABC	集中	飯田 義彦	持続可能性概念について様々な保全制度と地域実践事例から学ぶ。自然と文化の遺産管理において、持続可能性概念や国連の持続可能な開発目標(SDGs)をいかに結びつけて社会実装を進めるか。その上で、持続可能な社会づくりに向けたグローバルとローカルの協働のあり方と将来方策についての自身の考えを深める。	英語で授業。
0ATV206	Role of International Organizations and NGOs（国際機関の役割）	1	1.0	1・2	春B	木4,5	池田 真利子,飯田 義彦,肥後 時尚	修士・博士課程の学生は、ドイツやイタリアなどの西欧諸国だけでなく、旧東ドイツなどの東欧諸国やインドなどの南欧諸国における最近の国家的・地域的・地域的背景を知ることで、現代の「グローバル世界」において遺産とアイデンティティがどのように関連しているかを学ぶ。遺産保存の分野では、市民参加に根ざした実践は、特に1980年代以降、特定の地域的・政治的文脈によって、多くの成果を上げてきた。しかし、実利主義的な学術的言説は、国や地域の文脈を無視する傾向があり、「遺産化」や「組織化」に伴う対立も生じている。本講演では、30年以上にわたって実践的、理論的、そして学術的な見解に基づいて遺産学という学問分野を発展させてきたLeo Schmidt教授，Alexsandra Skedzuhn-Safir教授（いずれもドイツBTU），Jens Casper教授ら（エアフルト応用科学大学）の協力を得て、オンライン上でさらに学術的な議論を展開する。JASSO応募に際しての必須科目に設定。	英語運用能力が求められる。（日本語話者向け）参考）IELTS総合スコアが6.5程度。 英語で授業。 対面．オンライン(同時双方向型) 2025年度は対面講義（教室で国内外の大学とオンラインで接続する可能性はある）を予定する。
0ATV207	International Conventions for Heritage Conservation（国際条約論）	1	1.0	1・2	春BC	集中	飯田 義彦,堀江 正彦,池田 真利子,肥後 時尚	生物多様性保全や気候変動問題などの地球環境の保全や遺産の保護と開発に関する国際条約、ならびに世界中の様々な国々の事例研究を通じて、急速に変化する社会状況に応じて、遺産と共存しながらどのように環境を保全し、持続的な社会を実現するかを学ぶ。	非常勤講師：堀江正彦，外部講師：鈴木渉 英語で授業。 対面

0ATV208	Project Practice in UNESCO-designated Area（ユネスコ地域演習）	2	2.0	1・2	春C夏季休業中	集中	飯田 義彦	ユネスコエコパークやユネスコ世界ジオパークに登録された地域を訪問し、自然や文化の遺産保全と持続可能な地域づくりとのバランスを取るための実践的な方策について、現地の関係者の取組や国際的な取組の双方から学ぶ。	現地実習（石川県白山市） 英語で授業。
0ATV209	Advanced Practice of Heritage Studies（市民参加研究演習）	7	3.0	1・2	通年	集中	池田 真利子	本演習は「World Heritage and Civil Participation(世界遺産と市民参加)」で学んだ国内外の学術的視点や知識に基づき、海外（主としてドイツ等の西ヨーロッパ）や国内のフィールドを実際に訪れ、より実践的に研究方法を習得することを目的とする。本科目のねらいは，0ATV204「World Heritage and Civil Participation(世界遺産と市民参加)」で学んだ研究視点や各年設定のテーマに関連し，その研究方法やデータ取得方法を大学／現地フィールドで具体的かつ実践的に学ぶことである。学生は地域調査の基礎を学ぶだけでなく，自ら主体的にフィールド調査に取り組む経験を得ることができる。また，海外フィールド調査において，「自分が知りたいこと」の情報を得るため，英語やその他の国の言語能力を使用することで，国際的な学術議論を無理なく行うことができるようになる。なお本科目では，専用のタブレット端末・録画機器を最大限活用したグループ学習を行う。	英語運用能力が求められる。（日本語話者向け） 英語で授業。 対面．オンライン(同時双方向型) 2025年度は対面（教室で国内外の大学とオンラインで接続する可能性はある）を予定する。 奇数年度実施。
0ATV301	建築遺産論	1	1.0	1・2	春AB	木2	下田 一太	多様な歴史的背景や環境条件、意匠的特徴や利用可能な材料の特性に根差した建築遺産の理解、分析、調査、記述の方法と視覚化、評価の方法を学び、そうした歴史的建造物の意義や価値を保存・継承するための修理や復元の理念と技術、それらを伝達するための整備や再生の幅広い手法や技術について、国内外の世界文化遺産を含む建築遺産を事例として理解する。授業を通じて、各自が関心を有する建築遺産に対して、必要とされる調査を実践的に適用するための知識を習得し、保存や活用のための具体的な提案ができるようになることを到達目標とする。	対面
0ATV302	建築遺産演習	2	3.0	1・2	春C夏季休業中	集中	下田 一太	建築遺産や周辺環境、建築と人との関係性を測量、記録し、図面化する手法について実践を通じて学ぶ。また、それらの記録や各種表現を、建築遺産やその地域の保存や活用のために利用し、提案を関係者に共有し議論する一連の過程を経験する。それらの過程において、建築遺産の研究や修復、活用における幅広い課題を理解し、建築の構造や意匠、技法の特質、建築空間の利用方法等を調査・分析する能力を養う。多様な専門的知識や技術を横断的に連携し、取り組む必要のある建築遺産の保存と活用の体験を通じて、多様な関係者と協働し、建築遺産の保護と活用に寄与することができるようにする。	学外の建築遺産にて対面で実施 。7月～9月に予定。 対面
0ATV303	美術遺産論I	1	1.0	1・2	春AB	火3	八木 春生	講義形式(学内)。中国で世界遺産に認定された雲岡石窟や龍門石窟を対象とする。この授業では、その中でも北魏時代(439年から534年)に開かれた石窟を取り上げる。窟形式や造像の様式、形式、また文様などの要素を様々な角度から分析し、それを総合的に考察することで評価を行う。それぞれの石窟がいかなる目的のために、またいかなる人々のために開かれたか、そのためにいかなる工夫がなされたかを明らかにする。そしてこの作業から抽出される、それぞれの石窟の特殊性に基づき、それに適した石窟の保存を考える能力を養成する。これにより、中国北魏時代の代表的な石窟に関する基礎的な知識を有し、その評価を基盤として活用など保護の方法を自らの研究と関連してできるようになる。	対面
0ATV304	美術遺産論II	1	1.0	1・2	秋AB	火3	八木 春生	講義形式(学内)。中国で世界遺産に認定された敦煌莫高窟、龍門石窟などの、唐時代前期(618年から655年)に開かれた石窟を取り上げる。窟形式や造像の様式、形式、また文様などの要素を様々な角度から分析し、それを総合的に考察することで、これらの石窟の評価を行う。敦煌莫高窟唐前期諸窟や、龍門石窟唐前期諸窟のほとんどは、北魏時代に国家により 開かれた雲岡石窟と異なり、民間による造営である。浄土教が流行したこの時期に、人々がいかなる目的を持って造営し、またそれらの人々の要求を満足させるためにどのような工 夫がなされたかを考察する。そしてこの作業から抽出される、それぞれの石窟の特殊性に基づき、それに適した石窟の保存を考える能力を養成する。これにより、唐時代前期の代表 的な石窟に関する基礎的な知識を有し、その評価を基盤として活用など保護の方法を自らの研究と関連してできるようになる。	美術遺産論Iを履修した者に限る 対面

0ATV305	美術遺産演習	2	2.0	1・2	秋A	集中	八木 春生	演習（学外）。中国の仏像や陶磁器を多く所蔵する東京国立博物館などで、作品を様々な角度から観察する。作品を見比べることで、制作された時代や地域を知るだけでなく、実物を見て制作した人の目的を考える。同時に、展覧会を企画した学芸員が何を意図し、何を重視して作品を展示したのかを考え、理解することで、自らの作品理解を深めていく。	美術遺産論Ⅰを履修した者に限る 対面
0ATV306	保存科学概論	1	1.0	1・2	春C	木4,5	松井 敏也	保存科学の沿革・保存科学技術のあり方・研究方法を論じ、保存修復事例をもとに文化財を取り巻く保存環境・劣化現象の解明、その保存対策の手法について解説する。それにより、遺産や美術品の劣化や損傷し対し、その診断手法の確立、ならびに診断結果に対する総合的評価を立地環境と担当者らのスキルなどと併せて考慮する視野を構築することを目指す。実践的処置技術については今後の社会及び環境変動を見据えた課題の抽出とその解決法を科学的に行う能力を習得する。	対面
0ATV307	保存科学演習	2	2.0	1・2	夏季休業中	集中	松井 敏也	保存対象の活用状況や管理状態、地域の関わり方の調査から得られる課題を整理し、対象文化財の保存科学的調査を実施する。保存科学研究の基本である、材質分析・構造調査・保存環境の調査方法について、調査機器を用いての実地研修により習得させ、その分析、評価を関連分野の研究成果等と併せて総合的に考究させることを目指す。また世界遺産をはじめとする遺跡や博物館において、専門家らによる指導助言を受けながら現場レベルの保存科学実務を学び、習得した技術や能力をさらに発展させる。	対面
0ATV401	遺産整備計画論	1	1.0	1・2	春A	月4,5	上北 恭史	遺産の歴史的価値を評価し、遺産の保存手法、環境整備等について論じ、社会的保護制度や遺跡、建造物の保存手法、地域再生事業などの活用計画について考究する。教育の目標として、文化遺産を中心に、保護制度と遺産価値の理解を通して適切な保護の方法と利活用の手法について計画し、事業を遂行するための基本的考え方を学ぶ。授業の到達目標として、遺産保護制度の法令の理解および保護計画事例を把握し、遺産の持つ歴史的・社会的価値を評価する能力、需要に適した活用方法の提案ができる能力を身につける。また遺産の復元の問題や国際協力事例について事例を基に議論し、遺産を活かした地域再生について対応できる人材の育成を重視する。	対面
0ATV402	遺産整備計画演習	2	2.0	1・2	春ABC	集中	上北 恭史	遺跡や歴史保存地区などで実施されている遺産保護・活用事例に触れ、保存事業や地域再生、観光事業について考察を行い、遺産の保護と活用計画の立案について習得する。授業目標として、遺跡や歴史保存地区で行われている保存活動の実例について学び、保存や再生、活用方法について詳しく考察を行う。さらに遺産整備計画を立案できる能力をつける。到達目標として、遺産保存の実例に触れ、法律、条例、保存計画棟の保存制度を手がかりに遺産保護の具体的手法について分析できるか確認する。また保護されている遺産の状況を分析し、保護における問題点や利用の手法を提案できる能力をレポート等で確認する。	
0ATV403	文化的景観論	1	1.0	1・2	春AB	火4	黒田 乃生	遺産としては比較的新しい概念である文化的景観について、景観の概念の変遷、世界遺産における文化的景観をめぐる議論と現状、日本の文化財における文化的景観の定義と保護、景観と社会の関係などの基礎的な知識の習得に加え文化的景観の評価および保全に関する事例を紹介する。講義全体を通じて他の文化遺産と文化的景観の特徴の異同を考究するための緒を与える。保全や概念について、履修生とのディスカッションを通じて文化的景観の曖昧さや保護の課題について自ら考えることができるようにする。	対面
0ATV404	遺産観光論	1	1.0	1・2	秋AB	月4	伊藤 弘	観光に関する用語や意義、歴史的かつ現状の課題および計画論等に関して概説を行うと同時に、観光の対象となる文化資源や自然環境について、世界遺産や指定文化財、自然公園など制度上の評価に捉われない評価の考え方を整理する。利用と保護が持続的に同時に求められる、自然および文化を活かし続ける観光のあり方や取り組み手法、それに基づく観光地整備の考え方について、具体の事例を取り上げながら、その効果と課題を踏まえて考察する。	対面

0ATV405	プランニング演習	2	3.0	1・2	春C秋A 夏季休業中 秋B	集中	伊藤 弘	自然および文化を、住民および来訪者がより深く理解できるような持続的な利活用方策に関して、特定の資源を対象に、広域的な周辺環境および対象資源について、課題の整理からテーマの設定、計画案の策定に至る一連の作業をグループワークを通して体験し、計画の考え方や作業の流れ、評価方法を理解する。また、毎回進捗報告会を実施することで、各自の考え方や主張を他者に分かりやすく伝えるプレゼンテーションのやり方と、計画案に関するディスカッションを体験する。	7/25 13時・9/上旬 （現地：白川・五箇山（2泊3日））・ 10/6,10/20,11/10,11/17,12/1,12/15（いずれも月曜5限以降） 対面
0ATV406	インタープリテーション概論	1	1.0	1・2	秋AB	集中	三ツ井 聡美	自然遺産や文化遺産の価値を伝えるインタープリテーションの学術的背景や概念について学ぶ。また、筑波大学内を事例地にしてインタープリテーションのスキルの向上をはかる。	
0ATV501	世界遺産学インターンシップ（短期）	3	1.0	1・2	通年	応談	下田 一太,池田 真利子,上北 恭史,黒田 乃生,八木 春生,松井 敏也,伊藤 弘,飯田 義彦,肥後 時尚,三ツ井 聡美	遺産の保存・活用に関わる行政機関・法人やサイト等において実地研修を行ない，現場でのノウハウを学ぶこと等が求められる。インターンシップ先の代表的なものには，世界遺産保全に関する行政機関・コンサルティング，研究所，テレビ局，博物館・美術館等がある。研修先の選択にあたっては，修士論文研究の主題との関連性に留意すること。研修機関からの評価を考慮し，インターンシップの成果を評価する。 インターンシップの期間の目安は1週間～3週間とする。	英語運用能力が求められる場合がある。（日本語話者向け）